

## Bankart&Bristow 変法術前後の可動域と筋力の経過 および術後経過に影響する因子について

○渡邊 健登<sup>(PT)</sup> (わたなべ けんと)<sup>1)</sup>, 仲見 仁<sup>(PT)</sup> 1), 藤井 貴広<sup>(PT)</sup> 1), 上谷 祥紘<sup>(PT)</sup> 1),  
田中 誠人<sup>(MD)</sup> 2), 武 靖浩<sup>(MD)</sup> 3), 林田 賢治<sup>(MD)</sup> 3)

<sup>1)</sup> 第二大阪警察病院 リハビリテーション技術科

<sup>2)</sup> 第二大阪警察病院 スポーツ医学センター

<sup>3)</sup> 第二大阪警察病院 整形外科

### 【目的】

外傷性肩関節前方脱臼に対する Bankart&Bristow 法 (以下 BB 法) は良好な術後成績が報告されている。しかし術前から競技復帰までの可動域と筋力の経時的変化に関する報告は少ない。また術後経過に影響する因子の報告は我々の渉猟しうる範囲では確認できない。よって本研究の目的は、可動域と筋力の経過と術後経過に影響する因子を明らかにすることである。

### 【対象と方法】

外傷性肩関節前方脱臼に対し BB 法を施行した 12 例 12 肩を対象とした。計測は下垂位外旋 (ER1)、外転 90 度外旋 (ER2)、外転 90 度内旋 (IR2) の可動域および等尺性筋力を術前、術後 3、6 ヶ月で実施した。

### 【結果】

可動域および筋力は各肢位で術後 3 ヶ月に減少する傾向にあった。可動域と筋力の相関は術前 ER2 可動域と術後 6 ヶ月 IR2 筋力に正の相関を認めた。術前 ER2 可動域に制限のある群 8 肩と制限の無い群 4 肩の比較では、術後 6 ヶ月 IR2 筋力に有意差を認めた。

### 【考察】

BB 法では共同筋腱である肩甲下筋への癒着や Sling 効果が重要とされている。しかし術前 ER2 可動域制限のある群では、術前からの疼痛や脱臼不安感による可動域制限に加え、Bristow 法による肩甲下筋への侵襲により、術後 6 ヶ月 IR2 筋力の回復が遅延しており制動効果が十分に発揮されていない可能性が考えられる。よって本研究より術前可動域制限に対し介入を行うことで、良好な筋力回復の一助になる可能性が示唆された。